

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名：市原 英基

1. 研究者になるうとしたきっかけ

私が医師になった頃は、進行非小細胞肺がんの予後は非常に悪く、治療すべきかすべきでないのかが大きな問題でした。そのような中、多くの亡くなられていく患者さんを担当し、既存の治療ではだめで全く新しい治療の開発が必要だと痛感したことが研究者になるうとしたきっかけになりました。

2. 助成研究の内容紹介

進行肺がん治療では、遺伝子変異に応じた薬剤を使うことで腫瘍はかなりの程度小さくなります。しかし、ほとんどの場合、一部腫瘍が生き残るため、薬の治療で肺がんを治すのは困難な状況です。なぜ一部の腫瘍が生き残るのか、そのメカニズムを今回の研究で明らかにしたいと思っています。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

腫瘍の一部が生き残るメカニズムを明らかにできれば、そのメカニズムを阻害することでこれまで難しいとされていた進行肺がんの根治も夢ではなくなると考えています。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

この度は数多くの応募の中から本研究を御採択くださりまして心よりお礼申し上げます。提案させていただいた研究が研究だけで終わることなく、患者さんへの新たな治療につながるよう努力して参ります。